

陸前高田市立広田中学校

2014年 12月 16日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1) 「saveMLAK」博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報 <http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK>
- (2) 「陸前高田市東日本大震災検証報告書:資料編」陸前高田市 <http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/kategorie/bousai-syoubou/shinsai/shiryou.pdf>

【場所】

大野湾から約200m、広田湾から約800m
の位置にある。
住所:岩手県陸前高田市広田町天王前64-1
※現在は閉校し、別の学校と統合された。

【東日本大震災による被害】

- 津波により校舎が浸水した。(1)
- ※現在、校舎は取り壊されている。



【震災当日の様子】

地震発生時、大部分のクラスがホームルーム中であった。地震の揺れがおさまるのを待って体育館に避難した。体育館は地区の避難所に指定されていたため、海側の扉を開放して市民を受け入れていた。体育館から津波が堤防を越える状況を確認したため、斜面を登って旧広田水産高校のグラウンドへ避難した。その後、津波が引いてから、広田小学校の体育館へ避難した。広田小学校に迎えにきた保護者へ生徒を引き渡した。自宅が津波により被害を受けた生徒と教職員は、3月11日の夜は広田小学校体育館に宿泊した。翌3月12日の昼頃、全生徒の安否確認が取れたため、教職員にも家族の安否確認に向かうよう指示が出た。教職員は車が流されていたので、徒歩で自宅へ向かった。(2)

【調査して言えること】

学校は嵩上げされた土地に建っており標高は9mほどあるが、大野湾(東方)から約200m、広田湾(西方)から約800mと複数の湾に囲まれた地形の場所にあり、地震の際に高い津波が起こる危険性のある、高台への避難の必要のある学校である。

学校の周囲には高台や山があり、震災の時に避難した旧広田水産高校は中学校の隣の施設で、中学校の校舎からグラウンドまでは120mほどの距離しか離れておらず、標高約24mに上がることができる。以上のことから、学校外への避難がしやすい学校である。



北から見た学校敷地跡(2014/3/17撮影)
※校舎は取り壊されており、校門が残っている。



学校(西から見た大野湾(2014/3/17撮影))



敷地の高上げの様子(2014/3/17撮影)
※周囲の本来の土地の標高は2~3mほどである。